

【研修内容】

平成25年に「〇〇な障がい者の会」を立ち上げられた講師の内田さんは生まれながら「骨形成不全症」により車椅子での生活。くしゃみで肋骨を骨折することもあり、不自由になって当たり前と思っていたことが有り難いと痛感される。

外出を自立し挑戦したいとの気持ちから1人で東京出張、更に車椅子関係のプロジェクトで外国にも行かれた行動力の持ち主でもある。

車椅子生活で困るのは3つの「さ」(高さ、段差、狭さ)であり、これらを解決するには、以下2つのバリアフリー社会が必要である。

1 ハード (エレベータ、多目的トイレ等の設備)

2 ハート (心の中の優しい気持ち)

ハード面についてはお金、時間、場所が必要となり全ては解決しづらい。これをカバーできるのがハートでありこれからの街づくりに必要である。

最後に、「何かお手伝いできることはありませんか。と声をかけてもらえたら嬉しいです。」とご自身の気持ちを伝えられた。

【学んだこと】

障がいがある方、高齢の方等困っている人がいることに気付き、自分に何ができるのかを考え、温かい声かけ等の行動ができる人でありたいと改めて感じました。様々な違いを持つ人々が共に生きる社会を実現するには、一人一人の理解と人権意識が必要だということを学んだ有意義な講習会でした。